

自己評価結果公表シート

赤城育心こども園

1. 本園の基本理念、基本方針、保育の目標

基本理念

◎聖書に記された「自分のように隣人を愛しなさい（Love your neighbor as you love yourself）」という隣人愛に基いた保育を行う。

◎乳幼児の最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。（保育理念）

基本方針

◎おこころも からだも ちえも たいせつに みんな なかよく

保育の目標

◎自分が、神様に愛されている大切な存在であることを知る。

◎命の大切さを知り、人に対する思いやりの心、優しい心をもつ。

◎自分に対する自信と豊かな感性をもち、何事にも意欲的に取り組む。

2. 本年度の経営方針

○職員一人ひとりが、自分の得意分野を生かし、職場においてリーダーシップを発揮する。

○ホームページ等で園の方針を示し、その方針に基づく取り組みを積極的に発信することを通し園の存在をアピールする。

3. 総合的な評価結果

評価項目	取り組み状況
職員一人ひとりのリーダーシップによる保育の質の確保	保護者に家庭保育のご協力をいただき土曜日に年2回の職員研修を開催した。進むべき保育の方向性をグループディスカッションなどを通し、しっかりと議論できた。また、職員会議に全職員が参加できるよう同内容の会議を複数回開催することにより、短時間勤務の職員の意見等も取り入れた保育環境の改善に取り組んでいる。研究等では、代表職員が「自園の幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿は何ですか？10の姿を意識してパート3」をテーマに保育研究グループASKで発表（リモート）をした。
園の方針に基づく保育を実践し、それを外部にも発信する	HPに記した「あそびの天才は、まなびの天才」を実践するために、3歳以上児には、様々な遊びを提供し、そこで非認知能力を育む保育を実践した。また、3歳未満児には、それぞれが自分の居場所を確保し、自己肯定感を高められるよう、個別の関りを重視し、アタッチメント形成に努めた。さ

	らに、そうした考え方や保育の様子をお便りやブログを通して、積極的に発信した。
--	--

4. こども園の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・職員一人一人が、主体的に、保育の改善等に関する考えを発信する機会を組織として設けることができた。園の方針に基づいた保育も、実践できているが、そのことを保護者や地域の人々にもわかりやすく発信することにおいては、さらに積極性を持ちたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
アフターコロナの保育実践	これまで以上に、職員一人一人が主体性をもち、活発な意見交換を通し、新たな時代の保育実践を行う。
積極的な子育て支援	コロナ禍で経験した、切れ目のある日本の子育て支援システムを反省し、保護者支援のあるべき姿を研究、実践する。
マニュアル作成・見直し	現行の保育に関するマニュアル類のアップデートを図る。

6. 財務状況

市の指導監査により、適正に運営されていると認められている。